
ハッピーエンド

PussyCat

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハッピーエンド

【Nコード】

N3892C

【作者名】

PussyCat

【あらすじ】

一人の女の子がD・V、いじめ、摂食障害、恋、を通じて人生を生きぬき。成長する様。ノンフィクションに近い話。

プロローグ（前書き）

ただ、読んでみてください。それだけで満足です。中傷はやめてください。きづつきやすい著者なものです。

プロローグ

あたしはいつもハッピーエンドに憧れてる。

でも、これは現実の話だから、まだまだエンドロールにはほど遠い。

悲しいかな、あたしのハッピーエンドはまだ遠い。

けど、あたしは生きてる。呼吸している。心臓はドクドクと波を打ち、血を流している。

まるで、生きぬくんだといわれているみたいだ。

あたしは前に前に進むだけ。

五歳の夏

大阪の中心都市からほどないところに、あたしの家は建っていた。蝉がうるさい猛暑の昼さがりにもかかわらず、五歳のあたしは母親の声にビクツつき寒気をもようしていた。

「みっちゃん、お昼ご飯やから、お父さん起してえー。」

あたしは愛されたかったから、恐怖を隠して笑顔でこう答える。

「うん、わかったあー。」

あたしは恐る恐る部屋の戸を開ける。そして、とびっきりの偽りの笑顔で、恐怖の物体を恐々揺さぶりながら、こう語るのだった。

「お父さん、お母さんがご飯やゆうてるから、起きてえー、なあなあなあって。」

今日は機嫌がよかったから、今日は大丈夫なはずだと震える手を押さえるために、自分にいい聞かせようとしていた矢先だった。

一瞬、ドスツと鈍い音を立てたかと思う矢先に、お腹に激痛が走る。それとともに怒鳴り声が耳に響く。しまった、起こしかたが悪かったのだろうか。

「うるさいねん、なんやねん、殺すぞ。」

あいつは何度もお腹を蹴り倒す。

スイッチの入ったあいつはもうおしまいだ。

「ごめんなさい、ごめんなさい、許してください。お願いします。」

お腹をかばいながら、何度も何度も、土下座する。

背中を蹴られながらも、土下座する。

「ごめんなさい、殺さないでください。」

「俺おまえが嫌いやねん。なんでおんねん。うっとおしいの。」

五歳のあたしにこんなに殴られる理由はわからない。

ただ、このあたしの実の父親という肩書きの男は、確実に娘のあたしの存在を疎ましく思っている。

それだけは、五歳の頭で理解できた。

「もうええわ、チツ。」

あいつはそお言って、おもちゃを解放したのだった。

その頃のあたしは信じていた、愛されることを、きっと生まれてきてよかったと感じれる時がいつかくるのだと。

母親の声がする。

「何してるん？ご飯やで。」

「何もないよ、今いく。」

ここで、食べなきゃ、また殴られる。

笑わな。笑わな。

食事をすると、なぜだか、心の隙間がうまったような錯覚に陥った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3892c/>

ハッピーエンド

2010年10月9日00時07分発行